

一札之事

一、源右衛門義、近年乱気付罷有候処ニ、此間乱性強罷成、当村者不及申ニ、他村江罷出、筋なき儀ヲ人々江申懸ケ、其上人之宅江(踏み)ふみ込(暴)込込あばれ候故、先々より各様并拙者共方江茂度々改(等)抔請難儀仕候、此上往来之衆中へ茂何様之義仕出シ可申歟と難計奉存候、依之御相談之上仮牢出来押籠置申候ニ付、扶持方之義ハ如何致候哉と御尋被成候所ニ、扶持米拙者共方より七兵衛方江相応ニ相渡シ候間、則七兵衛方より養ひ申候様ニ親類相談之上相究メ申候、然ル上ハ右源右衛門義渴江不申候様ニ可仕候、老母之義も拙者共方江引取(生)一性養育仕、末々御世話掛ケ申間鋪候、勿論源右衛門義不計煩付相果申候共、各様江申分無御座候、為其我々共方より加判仕一札遣シ申候、以上

享保十三年申十二月

神奈川町姉聳

久左衛門(印)

同町源右衛門弟

久次郎(印)

川崎領小田村姉聳 庄右衛門(印)

神奈川領綱島村同断 次郎右衛門

同領生麦村従弟 次兵衛(印)

同領同村同断 七兵衛(印)

同領同村同断 清次郎(印)

同領同村甥 長五郎(印)

名主 次郎右衛門殿

浜名主 十左衛門殿